

2023年4月2日 午前礼拝
「御霊の実について①」 説教:大木英雄牧師

【メイン聖句】 マタイ 6:9

だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』

【引用聖句】 ガラテヤ 5:22,23

22. しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、
23. 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

【説教要約】

(1) 愛について

私は私より家内の方が愛のある人だと思っています。「あみ」と裕紀が高校を卒業したので5万円ずつ上げました、家内の貯金はあと30万円もないのです。もちろん私が家内に10万円渡しましたが、しかしここで言われている愛は

マタイ 22:37

そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

ここで主を愛するとは

I ヨハネ 5:3

神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。

マタイ 22:39

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

私は思考型で、家内は感情型です。考え方の違う人を愛することは、そんなに簡単なことではありません。これは聖霊に満たされなければ出来ません。

ヨハネ 13:34、35

34. あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
35. もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

9つの御霊の実について自己吟味して、愛について自己吟味して、自分に愛が足りないなと思えば悔い改めればよいのです。

Iヨハネ 1:9

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

そして主の御名をあがめるために「主の御名をあがめさせてください」と祈れば良いのです。主の御名をあがめることがクリスチャンの目的ですから、「主の御名をあがめさせてください」と祈っていれば不思議にうまく行きます。

(2) 喜び

パウロは牢屋の中から手紙を書いています。

ピリピ 4:4

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

パウロがそう言えたのはパウロが聖霊に満たされていたからです。
パウロはまた

ピリピ 4:11

乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。

どんな人であれ牢屋の中で喜びに満ち足りることは聖霊に満たされなければできません。
使徒 16章で悪霊につかれた女の人が

使徒 16:16~25

16. 私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった。
17. 彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続けた。
18. 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け。」と言った。すると即座に、霊は出て行った。
19. 彼女の主人たちは、もうける望みがなくなったのを見て、パウロとシラスを捕え、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。
20. そして、ふたりを長官たちの前に引き出してこう言った。「この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、
21. ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」
22. 群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、

23. 何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。
24. この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。
25. 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。

パウロは何にも悪いことをしていないのに牢屋に入れられ足に足かせをかけられていました。このような状態で賛美をしています。しかも囚人たちは聞き入っていた。これは聖霊に満たされなければで出来るものではありません。

私は清瀬リハビリ病院に 3 カ月入院していましたが、2 カ月は車椅子、1 か月は手押し車、3 度の食事は出ますが、おやつはゼロ。おやつを食べないのでどんな食事でもおいしいのです。そして私は創世記からガラテヤ人への手紙まで読みました。

1 日 3 回のリハビリですが、柔軟体操です。手術した方の足の筋肉が固まっているので、柔軟体操をするのが痛いのです。手押し車になってからは、毎日 1000 メートルは歩きました。それでも毎日聖書を読んでいるので喜びはありました。

しかしパウロとは比べものになりません。「自分には喜びがあるか」を自己吟味すればよいのです。どんな状況でも喜んでいることが主の御心ですから、喜びがなければ悔い改めればよいのです。どんな状況でも喜ぶことが主の御名をあがめることですから、「主の御名をあがめるようにしてください」と祈れば良いのです。

(3) 平安

マルコ 4:35~41

35. さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう。」と言われた。
36. そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行った。
37. すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって水でいっぱいになった。
38. ところがイエスだけは、ともものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われませんか。」
39. イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ。」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。
40. イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」
41. 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った、「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

ガラテヤ 5:16~20

16. 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。

17. 肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、
18. 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、

現在の問題は、ほとんど肉の欲です。不品行とか、敵意、争い、です。これは平安をなくします。ここに平安がないときどうすればよいのか。

ピリピ 4:6&7

6. 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。
7. そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

平安がなければ悔い改めればよいのです。そして神様の御心は主をあがめることですから、私の罪の身代わりとして神の御子イエス様を犠牲にされた神様の御名があがめられるように祈れば良いのです。

「主の御名をあがめる」

創世記 1:26&27

26. そして神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。
27. 神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

ヨハネ 4:24

神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

神様は霊的な存在なので人間も霊的な存在として創造されたのです。

創世記 2:15~17

15. 神である主は、人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。
16. 神である主は、人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。
17. しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

神様は、人間をエデンの園に置き主の御名をあがめる者として創造された。しかし悪魔の誘惑により、善悪の知識の木からとって食べてしまったのです。

創世記 3:5&6

5. あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

6. そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

アダムとエバは善悪の知識の実を食べたので、悪魔の家族になってしまったのです。

ローマ 5:12

そういうわけで、ちょうどひとりの人（アダム）によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、…それというのも全人類が罪を犯したからです。

アダムは全人類の代表なのでアダムが罪を犯したので、全人類は悪魔の家族になってしまったのです。

ヨハネ 3:16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神様は天と地を創造された神様
その一人子＝イエス様
「お与えになった」という意味
人間は罪人です。

マルコ 7:22

姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、

姦淫＝男女が性的な罪を犯す事。

貪欲＝人間はこれで満足ということがない。

欺き＝「うそ」子供の嘘のつき方を教えるお母さんはいません、しかし子供はお母さんをだますような嘘をつきます。

「そしり」＝人の陰口を言う、その人の前ではその人の悪口を言う人はいません、しかしその人のいないところでその人の悪口を言います。

高ぶり＝人間は神様に創造された。神様は人間に必要な物をすべて創造された、太陽、空気、水、食べ物、しかし人間は神様を信じなくともよいという、これが最高の罪です。

ヘブル 9:27

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

人間が死ぬことは全ての人認めています。しかし死後、神の裁きがある事は、一度死んで蘇った人でなければ誰も言うことはできません。しかし一度死んで蘇ったイエスさまだけが言うことができます。

使徒 9:1~9

1. さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、
2. ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。
3. ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。
4. 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。
5. 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。
6. 立ち上がって、町にはいりなさい。そうすれば、あなたのしなければならないことが告げられるはずです。」
7. 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれも見えないので、ものも言えずに立っていた。
8. サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。
9. 彼は三日の間、目が見えず、また飲み食いもしなかった。

サウロは律法を真面目に守っていたパリサイ人です。サウロは律法を守れば天国へ行けると考えていました。しかしクリスチャンはイエス様が三日目に死人の中から蘇ったと信じれば天国へ行けると信じている人たちです。クリスチャンの数が爆発的に増えてきたのです。

サウロはこのままだと真面目に律法を守る人がいなくなると考え、イエス様が三日目に蘇ったことを信じる人を皆殺しにしようと考えたのです。サウロは大祭司の所へ行き、クリスチャンを皆殺しにする任命書をもって来たのです。そしてダマスコまで来た時、天からまばゆい光が彼らをめぐり照らした。サウロは地に倒れた時、

「サウロ、サウロなぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。サウロが「主よあなたはどなたですか」というと、お答えがあった「わたしはあなたが迫害しているイエスである」私たちにはサウロの驚きは想像することが出来ません。

サウロはイエス様が死人の中から蘇ったと信じているクリスチャンを殺していたのです。ところがサウロは死人の中から三日目に蘇ったイエス様に会ったのです。サウロにイエス様が死人の中から三日目に蘇ったことを伝道できる人は一人もいません。伝道すればその場で捕まえられて殺されるのです。

死人の中から三日目に蘇られたイエス様ご自身が伝道されたのです。サウロはその場で目が見えなくなり三日間何も食べなかった。このことからサウロがいかに驚いたかを想像することが出来ます。

ヘブル 9:27

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

これは三日目に死人の中から蘇られたイエス様の言葉です。イエス様が死人の中から三日目に蘇られたことを信じない人は死後裁かれるのです。

ローマ 5:8

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

神様は十字架の上で私たち罪人が受ける神の裁きの身代わりとしてご自分の御子キリストを与えてになられたのです。私たちはいくら主の御名をあがめてもあがめすぎることはありません。

ヨハネ 3:16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。